

然るに1952年1月、吉野群山に詳しい岸田日出男氏と共に奈良県吉野郡伯母峯附近の山をこの土地の天ヶ瀬部落の古老に案内してもらつて歩いていたら、たまたま話がギョウジャノミズの名の真疑に及んだ処、古老はその名の真実を主張し、且つ水を出す実演をしてくれた。その方法は、墓を1mばかりの長さに切り採り、切口の一方を口にくわえて吹くのである。そうすると他端の切口からきれいな水がこんこんと滴たり、これを掌に受けて呑むのである。

われわれもこれにまねて滴たるきれいな水を何回も呑み、渴をいやすに充分であることを初めて知つた。

なおこの土地の柚夫は、事実山林作業中に渴えたとこの墓の水をこの様な方法で飲むのみならず、もし眼に物が入つたり、或は眼をわずらつたりすると、この墓を切つて一方の切口を口にくわえて吹き、他端の切口を眼の上にあて、吹いて出てくる水を眼の中に入れて洗眼し、不思議に眼のいたみや病がなおると云われている。(奈良女子大学)

○新歸化植物報知 (1) (杉本順一) Jun'ichi SUGIMOTO: Notes on the naturalized plants of Japan (1).

1. *Ambrosia trifida* L. クワモドキ, ヲナモミモドキ (山蔦一海: 満洲植物目録 1925) キク科。葉は対生して3-5中裂する。花序と花はブタクサに類する。昭和27年大村敏朗氏が静岡県清水港で無花株を採集して植えて花を見たもの。原産地は米国。

2. *Picris echinoides* L. ハリゲコウソリナ (新称) キク科。コウソリナに似て刺状剛毛が著しい。総苞の片は葉状を呈する卵形である。果実には長刺と先に冠毛がある。昭和27年杉野孝准氏が同じく清水港で採集した。原産地は歐洲であるが米国へも侵入している。

3. *Gifola germanica* Dumort. キヨミギク (新称) キク科。全草白い綿毛に被われてチチュゲサに似ている。併し本属は花序托が柱状に伸長していることが特長である。三種の管状花と冠毛とを有する。昭和27年杉野孝准氏が清水港で採集した。原産地は歐洲で米国にも帰化している。

4. *Sicyos angulatus* L. アレチウリ (新称) ウリ科。蔓草で卷手は3-4岐する。葉はうすくて五尖裂である。雄花は総状花序に、雌花は頭状に着いている。果実は長い刺毛がある。昭和27年大村敏朗氏が清水港で採集した。原産地は歐洲で北米にも帰化している。(静岡市)

○クワモドキ関東にも出現 (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: *Ambrosia trifida* has infiltrated into Japan.

最近千葉大学の渡辺清彦教授から千葉市内で採られた巨大なブタクサをつきつけられた。それはいうまでもなく *Ambrosia trifida* L. Great ragweed である。満洲に於て